

愛知教育大学

未来共創プラン

2023

未来の教育を共に創る



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

「地域から頼られる大学」を目指して

「愛知教育大学未来共創プラン」が策定されて3年が経過しましたが、2023年度は様々な地域から6,000名以上の児童生徒・保護者・学校教員・教育関係者等にご参加いただきました。



学長謝辞及び今後の抱負

4年前の学長就任時に、目指す大学の姿を「子どもの声が聞こえるキャンパス」、「地域から頼られる大学」というキャッチフレーズとして掲げました。その実現を目指す計画が「未来共創プラン」です。上の図のように、大学が位置する町内の子ども会行事から学長就任後初の海外出張で出かけた上海教育国際交流協会や甘泉外国語中学への訪問まで、多様な世代・国籍の方々と交流し素敵な時間を過ごすことができたことに感謝いたします。また、各戦略で開催したシンポジウム等に参加した子どもたちや学生の未来を志向した考えに感激しました。今後は、この広がりを通り深まりへと発展させていきたいと思っております。



学長 野田敦敬

写真：附属特別支援学校小学部受け入れ時より

子ども会のイベント
は毎回とても盛り上
がるニャン！



刈谷市内

子どもたちや保護者から頼られる大学として、教員及び学生が協働して「子ども会合同新入生歓迎会及びクリスマス会」を開催しました。

【戦略1「子どもキャンパスプロジェクト」】

写真：「子ども会合同新入生歓迎会」より

愛知県内

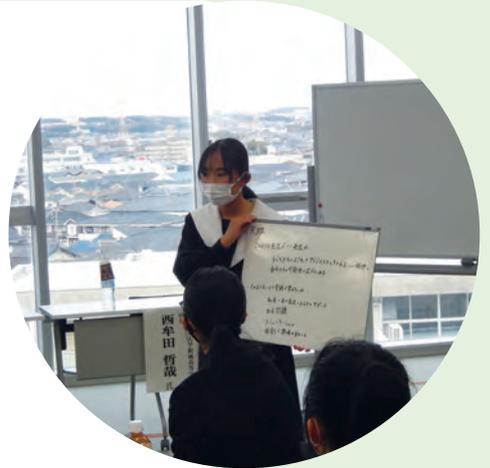
シンポジウムでは子どもも大人も活発な議論になったニャン。



学校や教育委員会から頼られる大学として、子どもの思いを生かした教師の仕事について考える「こどもまんなかシンポジウム」を開催しました。

【戦略3「教職の魅力共創プロジェクト」】

写真：「こどもまんなかシンポジウム」より



東海地方

連携協定を締結している大学から頼られる大学として、教員養成の高度化に向けて第2回「連携協定校ネットワークフォーラム」を開催しました。

【戦略9「大学間ネットワークの構築」】

写真：「連携協定校ネットワークフォーラム」より



たくさんの協定校
が参加してくれた
ニャンよ。



国内・海外

グローバルな活動も活発に行っていくニャンね。



海外の教育機関から頼られる大学として、上海教育国際交流協会と交流に関する覚書を締結し、現職教員である教職大学院生を現地へ派遣しました。

【戦略4「グローバル化推進プロジェクト」】

写真：「覚書の締結式」より





そもそも

「愛知教育大学未来共創プラン」

て、なんだニヤ？何をするのかニヤ？

びしえてがくちようせんせい〜



本学のキャッチフレーズとして、「**子どもの声が聞こえるキャンパス**」、「**地域から頼られる大学**」を掲げ、そこに謳う理想の姿を実現すべく、「愛知教育大学中長期ビジョン・目標・戦略」に「**共に未来の教育を創る**」という思いを込め 2021年3月に策定されたものだよ！

●「愛知教育大学未来共創プラン」のビジョン

「愛知教育大学は、
子どもと共に、
学生と共に、
社会と共に、
附属学校園と共に、
未来の教育を創ります。」

『未来の教育』を考える上では、これからの未来を担う子どもたちをはじめとした様々なステークホルダーの声を受けとめ、開かれた大学として共に前進していくことが不可欠であると考え、ビジョンにその方向性を位置づけました。

このビジョンは

1. 子どもを大切にする
 2. 学生を主体的な存在として尊重する
 3. 地域社会、学校、教育委員会とのつながりを大切にする
 4. 附属学校園との連携を一層強化する
 5. 共によりよい教育を創る
- という5つの視点から成ります。



●3つの目標と9つの戦略

「愛知教育大学未来共創プラン」のビジョンの実現に向けて、重点的に取り組む道筋を3つの目標として掲げ、目標を達成するために具体的な行動の方針として9つの戦略を立てました。



目標1

子どもや学生、社会との対話や協働を通して、現代的教育課題の解決に貢献し、より質の高い教員及び教育支援専門職の養成を実現します。

戦略1 大学及びその周辺地域を「学び」と「遊び」を一体化できるエリアとして、実践フィールドと実践プログラムを提供します。

(子どもキャンパスプロジェクト) ...5P

戦略2 教育リソースデータバンクを設置し、教育現場の問題解決に貢献する教育のプラットフォームを構築します。

(教育のプラットフォーム構築プロジェクト) ...13P

戦略3 よりよい教育の未来につながる教職の魅力を共に創り出し、発信します。

(教職の魅力共創プロジェクト) ...15P

戦略4 協定校を始めとする海外の教育機関との連携を密にして、グローバル化に対応したプログラムを学部と大学院で整備します。

(グローバル化推進プロジェクト) ...19P



目標2

大学と附属学校園との連携強化を図ることで、より質の高い教員研修を実現します。

戦略5 附属学校園と教職大学院との連携を強化し、教育の実践的研究拠点を構築します。

(共創的探究活動指導力育成プロジェクト) ...21P

戦略6 教育委員会や教育現場等との緊密な連携を通して、附属学校園が今後の公立学校等のモデルとなる実証研究に取り組みます。

(大学・附属学校園連携推進プロジェクト) ...23P



目標3

広域拠点型教員養成系大学としての意義と価値を高めます。

戦略7 教科等横断し、協働的に学び合う次世代型プログラムを開発するとともに、教育効果を客観的に検証する評価システムを構築し、学生の資質向上や大学の授業改善につなげます。

(教科横断探究プロジェクト) ...25P

戦略8 IR 部門を活用して得られた学内外の客観的なデータに基づき、戦略的な大学運営を行うとともに、教職員が協働して柔軟な組織運営を行います。

(IR・教職協働の推進) ...27P

戦略9 国公立大学と連携協定を締結して、教職大学院を核としたネットワークを構築します。

(大学間ネットワークの構築) ...28P





戦略1

子どもキャンパスプロジェクト

Strategy 1



大学及びその周辺地域を「学び」と「遊び」を一体化できるエリアとして、実践フィールドと実践プログラムを提供します。

- 「学び」と「遊び」が一体化したエリアへと転換する。
- 学生・教職員・地域の協働で多様な興味関心を広げる機会を増やす。
- 遠足や校外学習等の新たな目的地としての提案をする。
- 大学に自生している竹を使ったアクティビティーの創出と関連した体験的な教科学習を行う。
- 大学のリソースの再発見と有効活用、課題解決を推進する。



プロジェクトメンバー

真島 聖子 小塚 良孝 稲垣 匡人 樋口 一成 縄田 亮太 成瀬 麻美 西野 雄一郎 前原 義久 樋口 眞二
 柘植 貴史 大森 智子

Activity Report

●「学び」と「遊び」が一体化したエリアへの転換



第3回、第4回「あつまれ！子どもキャンパス」を開催しました

8月11日（金・祝）、第3回「あつまれ！子どもキャンパス」を開催しました。小学生127人と大学から149人（学生133人と教職員16人）の計276人（保護者の方を除く）が参加しました。

【午前の部】

- ①愛教の馬に会いに行こう！
- ②大学生とミニ運動会！
- ③ひとりできるもん！Cooking 編
- ④ひとりできるもん！Sewing 編
- ⑤愛教ベース！！みんなの秘密基地を作ろう！！

【午後の部】

- ⑥どっちのジャンプが得意！？
- ⑦フィルムで体験「ココロを保存」
- ⑧動いて遊ぼう！レクリエーション
- ⑨大学のふしぎ発見！鎌倉時代の遺跡をさがせ！

【夜の部】

- ⑩カブトムシのつかまえかたおしえます！

参加した子どもたちからは「負けたり勝ったりで、どちらが勝つかハラハラドキドキして、種目も面白かった」（大学生とミニ運動会！）、「みんなで一緒に何をつくるか、考えるのが楽しかった」（愛教ベース！！みんなの秘密基地を作ろう！）などの感想が寄せられました。



大学生とミニ運動会！

プログラムを実施した学生や教職員からは、「いろいろな体験をさせてあげることで子どもたちの視野が広がり、やってみたいにつながるのだなと考えました」「子どもは大人の表情をよく見ていて、周りとの協力しながら一緒に楽しむことが大事だと思った」などの感想があがりました。



愛教ベース！！みんなの秘密基地を作ろう！！





第3回、第4回「あつまれ！子どもキャンパス」を開催しました

また、11月23日（木・祝）、第4回「あつまれ！子どもキャンパス」を開催しました。小学生456人と大学・附属高等学校から358人（学生・生徒313人と教職員45人）、地域の高校から12人（生徒11人、教員1人）の計826人（保護者の方を除く）が参加しました。

参加した子どもたちからは「はじめてテニスをしたけどおにいさんおねえさんがとてもやさしくしてくれてよかった」（はじめてのソフトテニス in あいちきょういくだいがく）、「おねえさんのさいごのおどりがよかった。ばなのだんすもたのしかった」（リズムに乗って楽しく体を動かそう！）などの感想が寄せられました。

【午前開始の部】

- ①高校生と遊ぼう！！－世界の文化（遊び）を体験しよう－
- ②あそんでまなぼうさい！
- ③魔法使いのカフェで働こう！－マジック体験－
- ④はじめてのソフトテニス in あいちきょういくだいがく
- ⑤高校生と遊ぼう！！－サッカー・リズム運動－
- ⑥楽しさ発見わくわくスポーツ探検隊
- ⑦ガラスのクリスマスリース飾りを作ろう！
- ⑧木とプラスチックを加工するデジタルものづくり体験
- ⑨切って繋げるバンブーロード～第2章～
- ⑩micro:bitの無線通信で遊ぼう！
- ⑪マイクラで大きな建築物をつくろう！
- ⑫愛教の馬に会いに行こう！
- ⑬愛教ベース！みんなの秘密基地を作ろう！

【午後開始の部】

- ⑭リズムに乗って楽しく体を動かそう！
- ⑮なりたい自分に変身！モデルをつくってVTuberデビュー！
- ⑯植物がシャボン玉に大変身！
- ⑰竹チップでカブトムシを育てよう！～冬の幼虫探し～
- ⑱高校生と遊ぼう！－パルシューレ教室&ポッチャ体験－
- ⑲電動車いすサッカーってなあに？
- ⑳大学生とミニ運動会！
- ㉑どっちのジャンプが得意！？
- ㉒作って遊ぼうレクリエーション！
- ㉓オリジナルおはぎを作ろう！
- ㉔大学に生えている竹でおもちゃや道具を作ろう！
- ㉕彫金でピンバッジを作ろう
- ㉖ひとりのできるもん！Cooking編
- ㉗ひとりのできるもん！Sewing編
- ㉘お仕事ドローンを考えよう！
- ㉙フィルムで体験「ココロを保存」
- ㉚バンブーランタンを作ろう！！
- ㉛和楽器音楽物語コンサート「愛知 青い目の人形物語」
& お琴にチャレンジ



はじめてのソフトテニス in あいちきょういくだいがく



ガラスのクリスマスリース飾りを作ろう！

プログラムを実施した学生や教職員からは、「異なる学年の児童が混ざって活動する様子は、教育実習とは違った視点で観察したり関わったりする必要があり、勉強になった」「学生主体でプログラムを行った。最初はプログラムの実施に対してうまくできるか不安があったが、やってみると子どもたちがとても楽しそうに行ってくれたおかげで、指導に自信がついたようであった」などの感想があがりました。



リズムに乗って楽しく体を動かそう！



ひとりのできるもん！Sewing編



第3回イベント時のチラシ



第4回イベント時のチラシ





子どもの読書応援団体よみっこが、「絵本をあそぶ！よみっこ夏のよみきかせ祭」を開催しました

8月10日（木）、附属図書館にて「絵本をあそぶ！よみっこ夏のよみきかせ祭」を開催しました。当日は絵本・紙芝居・朗読劇・パネルシアターの4つのブースをつくり、来場された方がさまざまな種類の作品にかかわれるよう工夫しました。また、東海テレビアナウンサーの庄野俊哉氏とヴィオラ奏者の寺尾洋子氏にもご参加い



朗読劇の様子



ヴィオラとともに、絵本の読み聞かせ

ただき、特別イベントとして公演をしていただきました。来てくださった方が笑顔になったり、「楽しかった!」と言って帰ったりする様子を目の前で見ることができ、大きな喜びを感じました。よみっこメンバーも準備期間を通して絆を深め、積極的に意見を出し合い、より良いよみきかせ祭になったと思います。

ただき、特別イベントとして公演をしていただきました。

来てくださった方が笑顔になったり、「楽しかった!」

と言って帰ったりする様子を目の前で見ることができ、大きな喜びを感じました。よみっこメンバーも準備期間を通して絆を深め、積極的に意見を出し合い、より良いよみきかせ祭になった

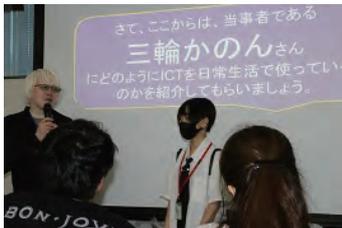
ディスレクシア協会名古屋と「こども ICT マイスター応援プロジェクト」を開催しました

6月17日（土）、ディスレクシア協会名古屋主催の「こども ICT マイスター応援プロジェクト」を開催し、小学生8人、中学生6人、高校生1人およびその保護者15人が参加しました。

はじめに、本学特別支援教育講座の相羽大輔准教授から「ICTを活用して読み書きをしてみよう」というテーマで講演を行い、読み書きのサポートのポイントや実際にiOSやアプリ、スキャナー等を活用して読み書きを行う動画が紹介されました。

次に、名古屋市内の中学校2年生の三輪かのんさんから「ディスレクシア当事者生徒による工夫の紹介」というテーマで事例紹介を行いました。

その後、年齢に応じて3つのグループ



相羽大輔准教授と三輪かのんさん

に分かれてICTを使って本やプリントを読み込んだり、学習プリントに書き込むワークショップが行われました。



ワークショップの様子

実施後のアンケートでは、「写真撮って文章を読み上げる、新しい方法が分かったからとても良かった（学校の宿題・課題等、デジ

ャーや電子教科書になっていないものも、これで読める。読みたい本も、親に頼まなくても読める!）」といった感想をいただきました。

子どもたちや保護者が必要なICTスキルを身に付けるだけでなく、子ども同士が友達になったり、保護者同士がつながる場となる非常に有意義な会となりました。



附属高等学校で「AUE.A スポーツ教室」を開催しました

12月10日（日）、附属高等学校で「AUE.Aスポーツ教室」を開催しました。今回は大学生・高校生が先生となり、前半はボール遊び教室を行い、後半はリズム教室とサッカー教室に分かれて実施しました。

前半のボール遊び教室では、ボールを投げる・受ける、道具を使ってボールを運ぶ・投げられたボールを打つなど、さまざまな動作を楽しく行い、後半のリズム教室では、まず音に合わせた準備運動を行い、簡単なステップから練習をはじめ、みんなで息を合わせながらダンスを踊りました。

サッカー教室では、ビギナーコース



高校生と楽しくボール遊び

とチャレンジコースに分かれてスポーツ鬼ごっこやドリブル練習、3対3のゲームを行いました。

小学生は、年の近いお兄ちゃん・お姉ちゃんと楽しみながら運動に取り組むことができ、高校生は、日ごろ接することの少ない小学生と接することで、コミュニケーション能力を育むことができ、大学生は、教員を目指すための授業の構築方法・実践方法を学ぶことができる活動になりました。



みんなで素敵な決めポーズ



みんなで作戦会議（サッカー）





星城高等学校の1年生が授業を見学・参加しました

10月31日(火)、星城高等学校の1年生180人と引率教員6人が大学見学のため本学を訪れました。事前に希望していた126人の生徒が2限と3限の計11の授業を見学・参加しました。

ガイダンスや学食体験、施設見学や卒業生との交流などを行いながら、2限に開講されている「ジェンダー・セクシュアリティと教育」「初等家庭科教育法A」「英語文学演習III」「日本語学演習」「初等理科教育法A」「声楽II」および3限に開講されている「市民リテラシー」「科学リテラシー」「生活科・総合的学習



大学生気分て授業に参加

授業論」「ダンス」を見学・参加しました。

高校生には少し難しい講義を聞いたり、大学生とグループディスカッションをするなど、実際に大学で行わ



大学生とのディスカッション

れている授業を体験する貴重な機会となりました。

授業に参加した生徒からは「授業中に実際に桜の葉を取りに行くというアクティブな授業が展開されていて面白いと思った」という感想が寄せられました。

また、引率した教員からは「大学進学の意味を考えるきっかけづくりができた。さまざまな分野の教室がある愛教大だからこそすべての生徒が考えるきっかけがくれる」という感想をいただきました。

井ヶ谷幼稚園の園児がどんぐり拾いと美術・技術実習棟見学のため来訪しました

10月31日(火)、どんぐり拾いを本学キャンパス内で実施し、井ヶ谷幼稚園の4歳児47人と5歳児54人、引率教諭10人、大学からは教員3人の合計114人が参加しました。

4歳児は到着後、道の端から端まで目いっぱい広がってどんぐりや葉っぱなどを探し始めました。傘の付いたどんぐりや丈夫な木の枝を見つけると、「こんなの見つけたよー!」「見て見て、いっぱいとれた!」と楽しそうに大学関係者や通りすがりの学生に見せていました。5歳児は到着後、美術・技術実習棟に展示されている美術作品を見学しました。園児



次はあっちに行ってみよう!



わー、大きな作品だ!

たちは大きな彫像から小さな瓦作品までさまざまな作品があることに驚きつつ、一つ一つじっくり観察しました。その後、養護・幼児棟前に移動し、芝生で寝転がったり野草

を集めて束にしたりするなど思い思いに遊びました。

参加した園児からは「どんぐりがいっぱい拾えてよかった」「芝生でゴロゴロするのが楽しかった」などの感想があり、また、井ヶ谷幼稚園の教諭からは「秋の自然物を集めたり、芝生で遊んだりして、子どもたちにとって貴重な体験をさせていただきありがとうございます。自然物は園で遊びに使わせていただきます」というお言葉をいただきました。



みんなで遊び尽くすぞー!

富士松北小学校の2年生が来訪しました

2024年2月13日(火)、刈谷市立富士松北小学校の生活科授業「町探検」の一環として、本学キャンパス内で写真を撮りながらクイズの答えを探して散歩をする「フォト散歩」を実施し、同校2年生66人と引率教員2人、本学の教員1人と生活・総合専修の学生12人の合わせて81人が参加しました。

全体説明で学生から説明を受けた後、地図とそれぞれの班の旗を持ち学生とともにフォト散歩に出発しました。

あらかじめ愛教大に関するクイズの動画

を見ていた子どもたちは、クイズの答えを探しながらキャンパス内をめぐりました。美術・技術実習棟前では、池の中にいるカバを見つけて大はしゃぎをし、第一福利



お散歩にいってきまーす!!

施設では生協の品そろえにわっと声を上げ、UPの横にある犬の像を見つけた班はかわいいねと感想を言い合いました。

他にも附属図書館や自然科学棟などの施設を写真を撮



メダルかけてください!

りながら散歩した子どもたちは、ゴールである講堂前で待っていた野田敦敬学長からシール付きメダルをもらい、学長先生にクイズの答えや散歩の感想を報告しました。最後に講堂

前の広場で「愛教ちゃん」「エディ」とともに集合写真を撮り、子どもたちは「たのしかった!」「また来たい!」と言いながら小学校へと帰っていきました。

附属名古屋小学校の2年生が遠足で来訪しました

4月26日(水)、附属名古屋小学校の2年生90人と引率教員4人が遠足で本学を訪れました。

午前中は「ものづくり体験」「馬とのふれあい体験」「図書館見学」の3つのプログラムを順番に体験しました。

「ものづくり体験」ではみんなでものづくりに挑戦し、出来上がった作品で楽しく遊びました。

「馬とのふれあい体験」では大きな馬を見上げながら勇気を出して鼻やあごをなで、馬の温かさを感じていました。

「図書館見学」では、図書館内のさまざまな部屋を探検して、職員の説明に興味深く聞きました。



どこのポケットに入るかな?



そーっと、そおーっと触るよ!

午後は第二体育館でバレー部の学生と楽しい時間を過ごしました。

子どもたちからは「大学生の人が優しく教えてくれたのでうまく作れたのでよ

かったです」という感想が、参加した学生からは「子どもたちは私たちが気づけない案を出してくれたり、私たちが用意したものを応用して遊んだりして私自身の新しい考えにつながった」という感想が寄せられました。



見たことない本がたくさんあるよ!

附属幼稚園児がじゃがいも掘りを行いました

6月5日(月)、自然観察実習園において、附属幼稚園の5歳児46人、幼児教育選修4年生20人と本学関係者合わせて69人がじゃがいも掘りを行いました。

今年度は生育状況が非常に良く、自分の手に収まりきらないような大きなじゃがいもを収穫し、お手伝いで参加した幼児教育専攻の学生は「すごいね!」「もっと大きなじゃがいもを一緒に見つけてみよう!」と声を掛け、園児とともに楽しく収穫しました。



みんなでじゃがいも掘り



帰りには野田学長とハイタッチ

収穫が終わると園児達が袋いっぱい詰めたじゃがいもを手に「じゃがいも掘りがとても楽しかった!」「またじゃがいも掘りをやりたい!」と笑顔で学生と会話をしており、これから教員を目指す学生だけではなく、教職員にとっても非常に貴重な体験の場となりました。

附属特別支援学校小学部が本学を訪問しました

10月25日(水)、附属特別支援学校小学部の1・2年生6人、3・4年生5人、5・6年生4人と引率教員8人が本学を訪れました。

はじめに社会科教育講座の真島聖子准教授と学生による歓迎セレモニーを開きました。色とりどりの風船で鮮やかに飾り付けられた会場に、子どもたちの歓声が上がりました。



風船がたくさんできれいだね!

次に美術教育講座の永江智尚准教授による色水を使った造形ワークショップに参加しました。透明な水がきれいに色づく様子を学生と一緒に「不思議だね」と笑いあったり、「こんな色が作りたい」と学生と色水を混ぜあったりと楽しみながら交流を深めました。



この色とこの色を混ぜると?

引率した教員からは「学生の方が子ども達に寄り添い、たくさん支援をしていただいて、子どもたちが生き生きと笑顔で活動することができました」という感想をいただきました。また、迎えた学生からも「子どもたちの興味をひくことが大切であり、そのためには優しく見守る必要があると感じた」という感想が寄せられました。



- 大学に自生している竹を活用したアクティビティーの創出
- 本学のリソースの再発見

自然体験活動の一環で田植えと稲刈りを実施しました

5月24日(水)、自然体験活動(創作和菓子コース)の一環で自然観察実習園において田植えを実施しました。



きれいに田植えができています

社会科教育講座の小坂俊介講師の監督の下、3年生を中心とした40人の学生が参加し、2チームに分かれて田植えにチャレンジしました。始めはぎこちない様子で苗を植えていた学生も、同園の作業員に指導を受けながら一列一列苗を植えていくにつれて、次第に上手に田植えができるようになりました。



稲を刈って束にします

10月25日(水)、稲刈りとはざ架けを実施し、14人の学生が参加しました。

稲刈りの方法を教えてもらった後、一列に並んで稲刈りをスタートしました。

すべての稲を束にしたあと、作業員が用意したはざに束を架けました。最後に稲を刈り取る機械「バインダー」の操作を体験しました。

11月15日(水)は7人の学生が参加し、粳すりと精米作業を行いました。



精米されたもち米に学生も感動!

粳すり後の玄米を精米器に投入すると白く精米されたもち米が出てきて、学生からは歓声があがりました。

体験した学生からは「自分たちが何気なく食べているお米を農家の方々がとても苦労されて作っていることが分かった」という声が寄せられました。

収穫したもち米は、11月23日(木・祝)に開催された第4回「あつまれ!子どもキャンパス」の中の「オリジナルおはぎを作ろう!」というプログラムで、子どもたちに振る舞われました。



刈谷市内幼児園・保育園にカブトムシの幼虫を配布しました

5月22日(月)～26日(金)、刈谷市内の幼児園・保育園18園にカブトムシの幼虫を配布しました。今年度は平成幼児園、小高原幼児園、かりがね保育園等刈谷市内の18園にカブトムシの幼虫が入ったプランターを贈りました。



幼虫をさがせ!

プランターを見つけた子どもたちは「何が入ってるの?」とのぞき込んだり、「カブトムシの幼虫がいるよ」と教えたと「どこにい



たくさんみつけたよ!

るの?」と土を掘ったりとさまざまな反応が見られました。幼虫を掌に乗せてじっくり観察したり、「意外とひんやりしてるよ」とこそっと職員に教えて

くれたり、たくさんの幼虫を手のお椀の中に入れて友達と笑いあったりとそれぞれが楽しく幼虫と触れ合いました。

「子どもキャンパスプロジェクト」使途限定基金がスタートしました

11月1日(水)、愛知教育大学として初となるプロジェクト等使途限定基金事業「子どもキャンパスプロジェクト」がスタートしました。募集期間は2023年11月1日から2026年3月31日までの2年5か月で、目標額は250万円です。

私たちは、学生が子どもたちとふれあう経験の場と未来を担う子どもたちに笑顔があふれる体験の場を、皆様と共に創っていきますので、ぜひご協力をよろしくお願い致します。(詳細は次ページをご覧ください)

「子どもキャンパスプロジェクト」は、未来共創プランの中でも重点プロジェクトの一つです。3年目を迎えました。学生や教職員等の企画数、参加した子どもの数は毎年前年を上回り確かな手ごたえを感じています。新たな試みとして、大学の授業で、学生が学外の講師の方々から習得したことをもとに、子ども向けに企画し発信する場ともなりました。基金へのご支援もお願いいたします。





「子どもキャンパスプロジェクト」 用途限定基金がスタートしました。



遊ぶこと、
学ぶこと、
教えることを
共に創る。

愛知教育大学 未来共創プラン戦略1

子どもキャンパス プロジェクト 支援のお願い

愛知教育大学公式
マスコットキャラクター
「エディ」

愛知教育大学公式
マスコットキャラクター
「愛教ちゃん」

「子どもキャンパスプロジェクト」ってなあに？

「子どもキャンパスプロジェクト」とは、学校教員や教育を支援する専門職を目指す学生が、大学のキャンパス及びその周辺地域で、子どもたちと共に「遊び」から「学び」を創り出す経験を通じて、これらの職業に必要な資質・能力を高める取組です。

これらの職業を目指す学生が、プロジェクトを通じて改めて「教える」ことの大切さ・おもしろさに気づくとともに、子どもたちに楽しい遊びや素敵な学びを体験してもらいます。

プログラム No.1

「愛教の馬に会いに行こう！」



「馬に乗ったときに、思いのほか高くて、驚いた。馬に触れて、とってもかわいかったです。」



これまでもたくさんの
「子どもキャンパス」が
実施されています！

プログラム No.2

「大学生とミニ運動会！」



「負けたり勝ったりで、どちらが勝つかハラハラドキドキして、種目も面白かった」

プログラム No.3

「大学のふしぎ発見！
鎌倉時代の遺跡をさがせ！」



「お兄さんやお姉さんが優しく、察のことについて話してくれたから、おばあちゃんやおじいちゃんに聴かせてあげたい！」

子どもキャンパスに
参加した
学生たちの声



- 「子どもたちが目を輝かせて馬と触れ合う姿を見てやって良かったと感じました」
- 「授業などのかきこまった場以外でこんなにもたくさんの笑顔が見られると思わなかった」
- 「教育実習や学校現場とはまた違う環境下で遊んだり学んだりできるのは面白いと思った。また、子どもの様子も学校の場とは違う面があると思うので、見ていて楽しかった」



寄附金の使途

いただいたご寄附は、プロジェクトの実施に必要な消耗品の調達、外部講師の招聘費用、その他プロジェクトの運営に関する諸経費などに活用させていただきます。



寄附金額とお礼について

- ・一口 1,000 円より受け付けております。(複数口のご寄附を歓迎致します)
- ・ご寄附いただいた方には、本学未来基金ホームページの芳名録への掲載の他に、金額に応じて次のお礼の品々をご用意しております。(水色部分は未来基金より贈呈)



寄附金の累計		100万円以上	50万円以上	10万円以上	5万円以上	3万円以上	7千円以上	5千円以上	3千円以上
お礼の品									
愛教ちゃん・エディの鉛筆・消しゴム・ノートセット	1セット								👤
	2セット							👤	
	3セット	👤	👤	👤	👤	👤	👤		
寄附者氏名を掲載・贈呈	「子どもキャンパスプロジェクト」イベントチラシ	👤	👤	👤	👤	👤			
	「未来共創プラン」報告書	👤	👤	👤	👤				
愛教ちゃん・エディのぬいぐるみ(計2体)		👤	👤	👤					
本学管弦楽団等の演奏会等にご招待		👤	👤						
感謝状	郵送で贈呈		👤	👤					
	贈呈式で贈呈	👤							
銘板	シルバー		👤	👤					
	ゴールド	👤							

寄附の手続きについて

本学ホームページでお願い致します。
<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/kikin/procedure.html>
 右のQRコードからアクセスすることも可能です。
 お支払い方法により手続きが異なります。「事業の種類(基金の種類)」は「子どもキャンパスプロジェクト」をお選びください。



- (1) インターネットによるご寄附
- クレジットカード決済 (利用可能なクレジットカードは以下のとおり)



- コンビニ決済 (利用可能なコンビニエンスストアは以下のとおり)



- インターネットバンキング決済 (pay-easy (ペイジー))



- (2) 振込用紙によるご寄附
 振込用紙によるご寄附をお考えの方は、本学ホームページにある「ご寄附の事前連絡フォーム」よりご請求ください。専用の振込用紙を郵送いたします。
- (3) 大学窓口でのご寄附
 本部棟 1 階財務課出納係へ直接ご持参下さい。平日 8:30 ~ 17:00

寄附金に関する税制上の優遇措置

愛知教育大学へのご寄附については税制上の優遇措置があります。

(1) 寄附者が個人様の場合
 「所得控除」の適用が受けられます。個人所得に応じた税率によって以下のとおり控除額が決定します。
 $[a \text{ 寄附金額} - 2000 \text{ 円}] \times (\text{所得額に応じた}) \text{ 税率} = \text{所得控除額}$

(2) 寄附者が法人・団体様の場合
 本学は、財務大臣から指定寄附金(法人税法第 37 条 3 項第 2 号)の指定を受けていますので、寄附金の全額を事業年度の損金に算入することができます。



お問い合わせ：愛知教育大学企画課未来共創推進室
 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1
 TEL:0566-95-3601 e-mail:mirai@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

戦略2

教育のプラットフォーム構築プロジェクト

Strategy 2



教育リソースデータベースを設置し、教育現場の課題解決に貢献する教育のプラットフォームを構築します。

- ケーブルテレビ、教育委員会、学校現場と連携し、地域の教材コンテンツを作成する。
- 教育委員会、学校現場と連携し、教員研修で活用できる授業動画を作成する。
- 愛知県内のケーブルテレビと地域の教育委員会、小中学校をつなぐ教育のプラットフォームを構築する。

プロジェクトメンバー

真島 聖子 小塚 良孝 青山 和裕 梅田 恭子 野平 慎二 井成 浩文 繁野 美奈 佐藤 将司



Activity Report

●シンポジウム「教育のプラットフォーム構築シンポジウム～授業記録を通して学び合う価値とは何か?～」を開催



2024年1月31日(水)、教職キャリアセンター教科教育学研究部門と未来共創プラン戦略2「教育のプラットフォーム構築プロジェクト」の共催で「教育のプラットフォーム構築シンポジウム～授業記録を通して学び合う価値とは何か?～」を開催し、地域の教育関係者19人、本学学生15人、本学教職員17人のあわせて51人が参加しました。

今回のシンポジウムは、本学名誉教授である故霜田一敏先生より寄贈された授業記録が学会館に開架されたことを記念して開催されたものです。同資料は、帝塚山学園授業研究所の故重松鷹泰所長をはじめとする研究所の諸先生方が、長年にわたる研究活動を通して集めたもので、授業研究には欠くことのできない貴重な授業記録です。本学教職キャリアセンターの前身である教科教育センターでは、11,021点に及ぶ膨大な授業記録を製本し、1985年3月に刊行しました。これまで本資料は、3冊の目録と

共に、美術・技術・家政棟で開架していましたが、建物の改修工事に伴い、2023年11月、新たに学会館1階に開架しました。

前半のシンポジウムでは、授業記録「ぼくのキアゲハを返して」(『研修』1982年8月号)をもとに、宇都宮大学教授の溜池善裕氏、元豊川市立東部中学校長の白井博司氏、野田敦敬学長が語り合い、授業記録を通して学び合う価値とは何かを問い、本学や地域の教育研究にどのように活用していくべきかを考えました。



シンポジウムのチラシ



挨拶をする野田敦敬学長



宇都宮大学教授 溜池善裕氏



元豊川市立東部中学校長 白井博司氏





次に4人から6人のグループに分かれてグループディスカッションを行った後、各グループから話し合われた内容が発表され、「授業記録は現在求められている個別最適な学びを実現する貴重な資料であり、それは時代が経っても変わらない」「授業記録は教師が自らを振り返る鏡であり、なおかつ多様な意見を聞いて学びを得ることができる」などが紹介されました。最後にシンポジストから総括があり、「授業記録に

残っている子供に出会えることが新たな発見だった、授業記録の価値が見直されるとよい」「授業記録を読むこと自体が授業をよくしていく、自分を更新していく機会になればと思う」と述べられました。

シンポジウムが終わった後も、参加者は開架された授業記録を見ながら、授業記録の収集にかけた先人に思いを馳せるとともに、未来の教科教育学研究の在り方を考える良い機会となりました。



グループディスカッションの様子



参加者からの発表



開架された授業記録を見学する参加者



●株式会社キャッチネットワークとの連携



「キャッチくんが行く」特別編 ～いっしょにぼうさい～ を撮影しました

2024年2月9日(金)、株式会社キャッチネットワークが本学で、「キャッチくんが行く」特別編～いっしょにぼうさい～を撮影しました。

これは1月1日(月)に起きた令和6年能登半島地震を受けて、子どもたちの、何度も起きる地震への不安で眠れない、食欲不振、過食、些細なことで泣く、泣き止まない等の心のケアの重要性が問題となった中で企画・制作されたものです。

当日は社会科教育講座の真島聖子准教授と社会専修の学生4人が、大きな地震が起きたらどうするか、どんな準備をしておくか等をクイズ形式で、幼児向けに時折ポーズを交えながらわかりやすく説明しました。

撮影には本学のマスコットキャラクターである愛



愛教ちゃんとエディ、キャッチくん
とキャッピーちゃんの共演

教ちゃんとエディ以外に、同社のマスコットキャラクターであるキャッチくんとキャッピーちゃんが加わ

り、非常に和やかな雰囲気の中で行われました。

今回制作された番組は、3月3日(日)から放送されています。

地震が起きたとき、子どもが自分の命を守るためにできることや、家族と一緒にできる備えを紹介しています。



撮影に臨む真島聖子准教授



ダンゴムシのポーズを練習する学生



私は学部生時代に霜田先生の「初等教育原理」の授業を受講しました。小学校での事例を数多く紹介していただき感銘を受けました。霜田先生が寄贈された膨大な授業記録を保存活用することは本学の使命です。大学会館1階入口左の部屋を見に行ってください。また、地元のケーブルTV局「キャッチネットワーク」さんには、これまでもご協力をいただけてきました。今後も相互に連携できる体制を構築していきたいと思ひます。



戦略3

教職の魅力共創プロジェクト

Strategy 3



よりよい教育の未来につながる教職の魅力を共に創り出し、発信します。

- 「教職の魅力共創シンポジウム」を通して、多様な立場の方々との意見交換を行う。
- 教職の魅力を伝えるリーフレットや動画コンテンツを作成する。
- 多様な立場の方々から原稿を募集し、シリーズ叢書『教職の魅力共創』を刊行することで、地域社会と共によりよい教育の未来につながる教職の魅力を共創する。

プロジェクトメンバー

真島 聖子 小塚 良孝 宮川 貴彦 田口 達也 竹川 慎哉 井成 浩文 繁野 美奈 佐藤 将司



Activity Report

●大学改革シンポジウム「こどもまんなかシンポジウム」を開催

12月23日（土）、一般社団法人国立大学協会 2023年度大学改革シンポジウム「こどもまんなかシンポジウム」を開催し、愛知県内の小・中学校の児童・生徒、教員及び保護者、本学の附属高等学校生徒、学生及び教職員、その他自治体関係者、産業界関係者等 170人が参加しました。

本シンポジウムでは、こどもたちの声を聴き、こどもたちの思いを生かした教育とは、学校とは、教師の仕事とは、どのようなものなのかを問い、こどもたちと共に語り合うことを通して教職の魅力を共に創る場づくりを行うことで、国立大学の役割について社会理解を増進する機会としました。

第一部では、こどもの声を聴き、こどもの思いを生かした教育とは、学校とは、教師の仕事とは、どのようなものなのかを問い、小中高大学生や教員等と一緒にグループディスカッションを行いました。



シンポジウムのチラシ



挨拶をする野田敦敬学長



第一部 グループディスカッションの様子





第二部では、シンポジストに、愛知東邦大学特任教授の山本かほる氏、豊田市教育委員会教育長の山本浩司氏、(株) エスワイフード代表取締役の山本久美氏、本学附属高等学校長の西牟田哲哉氏を招き、子どもたちの思いや考えを活かした新たな学びや未来の教育とはどのようなものなのか、子どもたちの思いや考えを教職の魅力共創にどのようにつなげていくのかについて、それぞれの立場から話し合いました。

終了後の参加者からのアンケートでは、『『国立大学が先頭に立ち、未来の教育を考えていかないといけない』という思いを参加者と共有することができた』『小中高生の率直な意見を聴き合うことによって、教員志望の大学生が、どのような先生になるべきか考え直す機会となった』『自分や他者の意見に真剣に向き合い、協動的共感が得られたことにより、自分自身を見つめ直し、自己の成長につなげる場を形成できた』といった回答があり、期待した効果が得られたシンポジウムとなりました。



愛知東邦大学特任教授 山本かほる氏



豊田市教育委員会教育長 山本浩司氏



(株) エスワイフード代表取締役 山本久美氏



愛知教育大学附属高等学校長 西牟田哲哉氏



第二部 シンポジウムの様子

Activity Report

●教員志望の意思決定に影響した事柄に関する調査研究



近年、公立学校の教員採用選考試験の受験者数が減少傾向にある状況下でも、大学入学前から教員を志望して意思を貫く学生や、入学当初は教員志望ではなかったものの大学在学中に教員を志望する学生はいます。これら教職を目指す本学4年生を対象にして、教職志望の動機についてアンケートとインタビューの両調査を実施して、それらの調査結果について総合的に分析しました。

アンケート調査では教員採用選考試験を受験した学生のうち308人の学生から回答を得ることができました。そのうち「入学前から教員志望だった」学生は265人、「入学後、教授受検を決めた」学生は43人でした。入学前から教員を志望する学生の具体的な志望理由として、「憧れや理想の教員がいる」ことを挙げる学生が多く、それに「子どもの成長に関わる」という「利他的」理由や「教えることに興味がある」という「内発的」理由が続きました。入学後に教職を強く目指すようになった学生においても、「利他的」「内発的」理由を挙げる学生が多いことが調査結果から分かりました。

また、入学後に教職を志した学生がどうして教員養成系大学に進学してきたのか、どういった理由で教職を強く意識するようになったのかを明らかにするため、インタビュー調査を実施しました。進学理由については、「偏差値帯が自分と近かった」や「金銭的に国立大学がいい」など学力・経済的事情が第一の理由として挙げられまし

た。第二の理由は、「〇〇部に落ち、浪人ができなかった」など代替的な選択肢として本学を選択したというものでした。その他に、親や先生から勧められて大学を選んだという学生も少なくありませんでした。このように、入学後に教職を強く志すようになった学生の大学進学動機をまとめると、消極的な理由で進学した例が多いことが分かりました。

次に、教職を志望する動機については、「留学に行って英語を学んだので、(省略)より専門的に教えられる中学校か高校の先生がいい」や「自分の専門の教科を教えることができる」などの理由がありました。このように在学中の専門科目への興味や関連する経験によって中学や高校の教員を志望するといった学生が多く見られました。また、教育実習やボランティア体験を通じて子どもと触れ合い、成長を見ることで教職を目指したという学生は、特に小学校教員を志望する学生に多く見られました。その他にも、教育実習を通じて仕事に対して自信を持てたことや、周りの励ましで教職が合っていると感じたといった学生もいました。

今後は、これらの分析に基づいて、大学カリキュラムにおける専門的体験の充実や一過性ではない子どもとの触れ合いの増加といった教員就職を促す学部教育の手立てを検討していくことが求められます。





2023年度の叢書「教職の魅力共創」は、社会共創編『新たな学び・学校のかたち (3)』、教科領域編『幼児教育から小学校教育の魅力共創』を刊行しました。

シリーズ概要

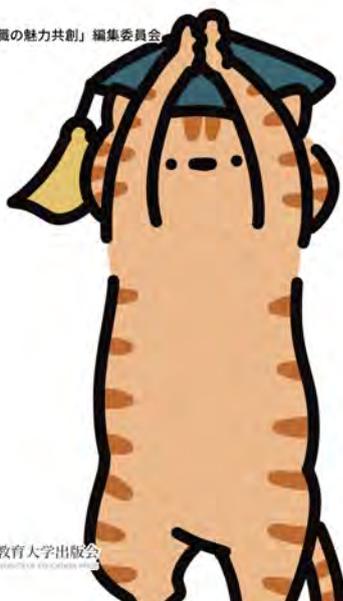
愛知教育大学（主催「教職の魅力共創」編集委員会 委員長 野田敦敬）では、多様なステークホルダーが「教職の魅力」を共に高め、創り、共有していただけるような場として、叢書シリーズを立ち上げました。

本シリーズには、学校教育や教職について広く考えを求め「社会共創編」と、各教科等の視点から多面的な教職や教材等の魅力を共創・共有する「教科領域編」があります。

新たな学び・学校のかたち (3)

叢書「教職の魅力共創」⑤

編集「教職の魅力共創」編集委員会



愛知教育大学出版会

叢書「教職の魅力共創」⑤

新たな学び・学校のかたち (3)

著者 編集：「教職の魅力共創」編集委員会

発行日 2024年3月発行

定価 1,100円（税込）

出版 愛知教育大学出版会

本書は、「こども基本法」が2023年4月に施行されたことに着目して、以下の二つの内容を取り上げました。

- (1) 子どもの権利保障、子どもの対話を重視した教育活動や取り組み
- (2) 社会的な課題への意識を高めることを目指した教育活動や取り組み

キャリアや専門領域が様々な全国の教育関係者による計13本の論考が収録されています。

叢書「教職の魅力共創」⑥

幼児教育から小学校教育の魅力共創

著者 編集：「教職の魅力共創」⑥編集委員会

発行日 2024年3月発行

定価 1,100円（税込）

出版 愛知教育大学出版会

本書のコンセプトは、就学前後の教育の魅力と、それに携わる保育職・教育職の魅力を、社会に発信し、社会と共有する契機をつくることです。本学の幼児教育講座、生活科教育講座に所属する教員、卒業生、修了生、などが、それぞれの立場から筆をとり、以下の3章を構成しました。

第Ⅰ章 幼児教育・保育の魅力が溢れる

第Ⅱ章 幼児教育・保育からの架け橋を小学校教育につなぐ

第Ⅲ章 やってみよう！幼保小連携・接続を実現するスタートカリキュラム！！

幼児教育から小学校教育の魅力共創

叢書「教職の魅力共創」⑥

編集「教職の魅力共創」⑥編集委員会



愛知教育大学出版会





Activity Report

●教職の魅力共創を伝えるコンテンツを作成



教職の魅力伝えるリーフレットや動画コンテンツを作成しました。リーフレットや動画コンテンツの制作・発信を通じて、教職をめぐる社会の声を聴き、対話の場を組織し、新たな教職の魅力を共に創ることを意図しています。今年度も多様な観点や立場から教職の魅力について語るインタビュー動画（4名の現職教員）を制作し、「教職の魅力共創」ウェブサイトに掲載しました（現在合計25本のインタビュー動画を制作済）。

今年度発行のリーフレットでは、本プロジェクトの4年を振り返り今後を展望する記事、「こどもまんなかシンポジウム」の様子、現職教員に対するインタビュー記事を掲載しました。



#22 現職教員インタビュー 知立市立知立東小学校長 都筑太氏



#23 現職教員インタビュー 知立市立知立西小学校教諭 松田惇氏



#24 現職教員インタビュー 愛知県立尾西高等学校教諭 村田圭佑氏



#25 現職教員インタビュー 高浜市立高浜中学校教諭 三矢美保氏



教職の魅力共創リーフレット vol.5



学長所感

シンポジウムの開催、叢書の発刊、調査研究、動画の配信など「教職の魅力共創プロジェクト」を進めてきました。簡単には教員就職率や教員採用試験倍率は高まっていきませんが、粘り強く一歩ずつ展開し、新たな時代の教職の魅力を共創していきたいと思えます。中でも「こどもまんなかシンポジウム」は近隣中学校や附属学校から予想以上の参加者があり、子どものパワーを感じることもできる機会となりました。





戦略4

グローバル化推進プロジェクト

Strategy 4



協定校を始めとする海外の教育機関との連携を密にして、グローバル化に対応したプログラムを学部と大学院で整備します。

- 海外協定校に赴き、研究者等の招待・派遣制度の整備について検討するとともに、海外の教育現場を視察することで教職員の国際理解研修を行う。
- 教職大学院に入学した教育委員会派遣、附属学校教員が海外研修できる制度を構築することを検討する。

プロジェクトメンバー

岩山 勉 小塚 良孝 高木 遠慧 真島 聖子 北野 浩章 マイヤー,オリバー・ルドビッヒ 野平 慎二
寺本 圭輔 ベネマ ジェームス 幅 良統 加藤 信也 倉地 玲奈



●グローバル化に対応した教員養成プログラム構築のために



制度設計のための試行・協議

2023年度は、戦略4の目的達成のため二つの活動を行いました。一つは、教職大学院に入学した教育委員会派遣、附属学校教員などの現職教員が海外研修できる制度を構築するための取組みです。6月に野田学長をはじめとする4人で中国・上海市に渡航し、上海教育国際交流協会と覚書を締結しました。その試行的取組みとして 10月 29日から 11月 12日にかけて、教育委員会派遣の教職大学院生1人を上海の公立中高一貫校へ派遣しました。派遣中は受入れ校の協力の下、日本語を専攻している中国人高校生に対して日本語で数学の授業を実施するなどの活動を行いました。



上海教育国際交流協会との締結式



教職大学院生による中国人高校生への日本語での数学授業

もう一つは、海外協定機関での活動です。上記の上海教育国際交流協会以外に、本報告書執筆時点において、以下の5ヶ国において教育現場の視察を行いました。





1) タイ・チェンライラチャパット大学

【期間】8月5日～9月3日

【派遣者】教員1人、学部生2人

【派遣先での活動】高校での日本語指導の見学、日本語キャンプ(キャンプ形式での日本語・日本文化の指導、紹介などを行うもの)への参加、協定校での日本語教育教材の作成、日本語の模擬授業などを行いました。



日本語キャンプへの参加

2) アメリカ・インディアナ州立大学



同大学教育学部関連小学校における本学派遣学生による模擬授業

【期間】8月7日～9月2日

【派遣者】教員1人、学部生4人

【派遣先での活動】同大学教育学部の関連小学校の教師を中心に教育評価に関する現状把握、並びに担当教師の授業参観を行い、本学の派遣学生による模擬授業及び発表会、研究会等を行いました。

3) ドイツ・フライブルク教育大学

【期間】9月3日～25日

【派遣者】教員2人、教職大学院生3人(うち現職1人)、学部生8人

【派遣先での活動】ケルン市内、フライブルク市内の教育機関(小学校、職業学校、大学)を訪問し、ドイツの学校運営や教育制度、教員の働き方に関して意見交換、情報交換を行いました。



フライブルク市内の職業学校への訪問

の学校運営や教育制度、教員の働き方に関して意見交換、情報交換を行いました。

4) 韓国・国立普州教育大学校

【期間】9月12日～18日

【派遣者】教員2人、教職大学院生4人(うち現職2人)、学部生5人

【派遣先での活動】派遣学生が附設初等学校において授業実践を行い、小学生及び大学生と深く交流を行いました。



附設初等学校での授業実践

5) モンゴル・国立教育大学

【期間】9月12日～19日

【派遣者】教員2人、教職大学院生2人(うち現職2人)、学部生9人(うち2人は26日まで滞在)

【派遣先での活動】科学・ものづくり教育や日本文化紹介、異文化体験、さらには、同大学や新モンゴル高等学校での授業補佐・実習等を中心として実施しました。



理科の授業への参加と交流



5月以降、新型コロナウイルス感染症が5類となり、ようやく本格的な動きをすることができました。中でも教育センター等での海外研修制度がなくなる中、教職大学院に進学している現職院生数人をいくつかの国に派遣し、上海市では授業をする機会までも得ることができました。今後も当初の目的でもある教育委員会派遣の現職院生のグローバルな感覚を養う上でも協定校への派遣を実施したいと思います。



学長

所感

戦略5

共創的探究活動指導力育成プロジェクト

Strategy 5



附属学校園と教職大学院との連携を強化し、教育の実践的研究拠点を構築します。

- 愛知教育大学と同附属高等学校との連携で実施される探究活動である「附高ゼミ」をフィールドとして、高校教員を目指す教職大学院生が「共創的探究活動指導力」を身に付けるとともに、高校教員が探究活動のファシリテート力をより高め、豊かにすることを目的とするプログラムの開発を行う。「共創的探究活動指導力」とは、多様な他者との共創、協働を通して探究活動を実践できる力である。
- 将来的には、本研究の成果を活かして、本学教員や附属高校の教員が総合的探究の時間に関する研修を共同実施したり、探究的学びの育成に関するハンドブックを作成したりすることを通して、教育の実践的研究拠点を構築する。



プロジェクトメンバー

杉浦慶一郎 西牟田哲哉 黒岡孝信 小塚良孝 真島聖子 石川恭 花井和志 山根真理 國府華子
岩田吉生 加藤淳太郎 宮川貴彦 齋藤ひとみ 西野雄一郎 村松愛梨奈 小田原健一 青山昌平
佐藤重成 鬼頭百合子

Activity Report

●2023年度「附高ゼミ」スタート！



4月13日(木)、新年度最初の「総合的な探究の時間」の授業を行いました。3年生は昨年度に引き続いて「附高ゼミ」を開講しました。生徒たちは興味・関心に応じて新たな探究テーマを設定したり、昨年度からのテーマを深めたりして、9月の「碧海野祭(あおみのさい:体育祭、大学講堂発表、校内発表を3日間で行う附属高等学校の学校祭)」での発表まで活動を続けていきました。



ガイダンスを聴く生徒の様子

4月20日(木)、今年度2回目となったこの日からは、アドバイザーとして生徒の活動を支援する本学の教員も加わり、ゼミ毎で本格的な活動が始まりました。今年度はさらに多くの教員が協力する予定であり、今回も、各教室で高校生たちは本学の教員からアドバイスをもらっていました。



自然科学1

4月27日(木)、2年生にゼミの雰囲気伝えるため、見学に来てもらいました。2年生は今日の各ゼミの様子も参考にしながら、これからゼミ選択を行い、9月からの「附高ゼミ」に参加します。



2年生の見学の様子

6月15日(木)、教育実習中に多くの実習生が授業の観察に来てくれました。中には自身が取り組んでいる卒業論文を踏まえて、積極的にアドバイスをしてくれる実習生もいました。

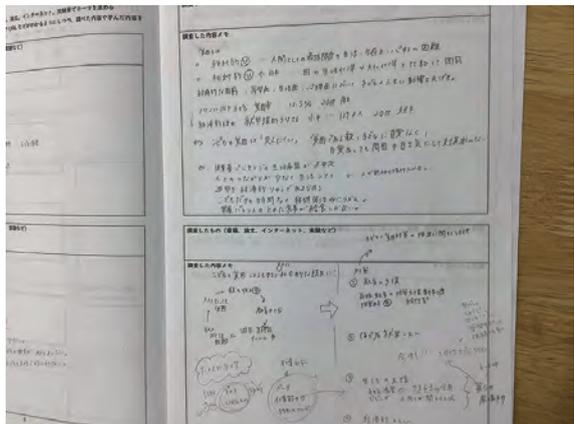


生徒の取り組みを観察する実習生





7月13日(木)、1学期最後の「附高ゼミ」を実施しました。9月の「碧海野祭」での発表に向けて、スライドやポスターなどの資料作りを始めました。



共通のテキストに調査内容をメモしています

9月15日(金)、「碧海野祭(校内発表)」の午後に、3年生「附高ゼミ」の発表会を実施しました。3年生はこれまでの活動の成果を1・2年生、高校・大学の教員の前で一生懸命に伝えました。その後3年生は振り返りとまとめの活動に入っていました。また、後期から2年生でも「附高ゼミ」を開講し、高大連携の幅を広げていきました。写真は会場での発表の様子で、「碧海野祭」のために制作した団Tシャツを着用している生徒もいます。



発表の様子

Activity Report

●日本教育大学協会研究集会で研究発表！

9月下旬に、「附高ゼミ」に参画している高校と大学の教員、大学院生にアンケートを実施しました。

アンケートの結果を基に昨年度と今年度の振り返りをまとめ、10月8日(日)に行われた日本教育大学協会研究集会第3分科会「大学・学部と附属学校園との連携・協働」(オンライン)において大学教員2名と附属高校教員2名が共同で「大学と附属高校の連携による「共創的探究活動指導力」育成プログラムの開発」について研究発表を行いました。

01 プログラムの概要

何がしたいのか？

大学生・大学院生、高校教員の「**共創的探究活動指導力**」を育成できるプログラムを開発する。

共創的探究活動指導力とは？

多様な他者と共創して**探究活動**ができるよう指導する力

様々な課題を解決した他校の探究活動の経験、課題を解決することで、高校生が探究活動を通じて社会へ貢献・開放する意欲を高めるための実践に繋がります。

高校生に主体的・協働的な学習である**心のエンジン**を駆動させる**学習者**を實踐できる教員が養成できる。

「共創的探究活動指導力」育成スキームの概要図

プログラムの概要

Activity Report

大学・附属共同研究論文集「共創」第2号に掲載

前号に続いて「附高ゼミ」の取り組みを基に、大学・附属共同研究論文集『共創』に大学教員と附属高校の教員の共著で、「附属高校における総合的な探究の時間の授業改善—高校教員と大学教員の振り返りを中心に—」について実践研究論文を投稿しました。



学
長
所
感



今年度附属高校を卒業する皆さんが1年生の時には「高大連携ゼミ」と称し9名の大学教員が高校で授業をしました。2年生の時からは附属高校の「総合的な探究の時間」である「附高ゼミ」が始まり、大学教員・大学院生・学部生が協力しています。地域社会の皆様にもご支援いただいています。新たな学びの形であり、ほかの高校にはない学びを経験できたことで、人生を切り拓く力を養うことができたかと期待しています。

戦略6

大学・附属学校園連携推進プロジェクト

Strategy 6



教育委員会や教育現場等との緊密な連携を通して、附属学校園が今後の公立学校等のモデルとなる実証研究に取り組みます。

- 附属学校園に所属する研究主任クラスの教員と大学教員により構成されたプロジェクト・チームが主体となり、毎月1回、リモートで協議会を開催する。
- 附属学校園同士の交流や大学との共同研究によってモデル授業を開発し、研究会・研修会で還元する。



プロジェクトメンバー

杉浦慶一郎 鈴木一成 小塚良孝 真島聖子 石川恭 加納誠司 砂川誠司 木村英勝 佐藤裕一
川瀬英幹 朝倉大 松尾裕太 西垣祥子 柳田真弥 佐藤重成 鬼頭百合子

Activity Report

●研究成果の公表・還元



2021年度から毎月1回遠隔会議を実施することで大学と7附属学校園での情報共有を継続して行っており、大学・附属学校園の着実な共同研究体制の構築に向けての素地ができました。

附属学校園が今後の公立学校等のモデルとなるための実証研究の改善サイクル構築及び継続のために、附属学校園の研究等が公立学校に活用されたかどうかを調査するアンケートを実施し、昨年度よりさらに踏み込んだアンケート内容となりました。

アンケート結果の分析・考察及びそれらに基づいた改善策を総括論文として整理し、公表しました。

また、附属学校園の研究会等に参加した幼稚園、保育園、小中高等学校等の教員を対象に追跡調査を行うための対象者の選定を行うとともに、附属学校園の研究等を幼稚園、保育園、小中高等学校等に活用した実践事例を実施するという成果が見られました。

■2023年度、各附属学校園で実施した研究会の様子

【附属幼稚園】

公開授業での異学年交流の様子「年長組の遊園地に年中組がお客さんに来ました」

分科会では学年ごとに当日の保育を含めて活発な意見交換をしました。



【附属特別支援学校】

学びを生活に生かす子どもの姿を求めて

自立活動の視点や発達検査等の結果からとらえた、その子の強みとなる実態をもとにつくった「できた喜びを感じるしかけ」を取り入れた授業を公開しました。



【附属名古屋小学校】

「わくわく つながる 授業デザイン」をテーマとし、「つながる」を行動基準として、仲間や地域と「つながる」、単元や学年、教科を越えて「つながる」、見方・考え方を働かせて資質・能力が「つながる」、そうした授業を各教科でデザインしました。





【附属岡崎小学校】

出版図書「自己の成長を自覚する子ども—非認知的能力に着目した教師支援—」の内容を具現した授業を公開しました。また、公開授業における非認知的能力に着目した教師支援の有効性について、子どもの姿をもとに語り合う授業協議会を行いました。



【附属岡崎中学校】

生活教育を基盤とした問題解決の学習過程において“自己考察”と“他者考察”を繰り返すことで、自分たちで見出した問題に対する最適解を導き出し、志につながる姿の表出をねらい、授業を公開しました。



【附属名古屋中学校】

深い学びをデザインする授業づくり

各教科の目指す生徒像に近づくための資質・能力が育まれるように、教師が学びの文脈を作り、その文脈に沿って生徒は主体的に学習に取り組みました。



【附属高等学校】

新学習指導要領で新科目として設定されている科目を中心に公開授業を行い、地歴公民科と外国語（英語）科、総合的な探究の時間の分科会を開催しました。



●大学・附属学校園共同研究論文集「共創」第2号を刊行しました！



『共創』の概要

『共創』は、大学・附属学校園、および地域の研究・実践活動の成果を広く公表するために紙媒体で発行するとともに、愛知教育大学学術情報リポジトリに登録し、電子媒体で公表することを目的とした論文集です。大学教員及び附属学校園の教諭、幼稚園・公立学校教諭による研究をまとめたものとして、総括論文、実践研究論文、実践研究ノート、学会発表報告、実践報告、活動報告、News Letter で構成しています。



共創 第2号 (2023年度)

著者 編集：愛知教育大学「共創」編集委員会

発行日 2024年3月発行

大学と附属学校園が連携した先導的な教育モデルの開発のために、「大学・附属共同研究論文集『共創』」を昨年度に引き続き刊行しました。

2022年度は第1号として21編の投稿から、2023年度は大幅に増え30編もの投稿数となり、より充実した内容の論文集が完成しました。

附属学校園の研究主任、大学教員、附属学校課職員の参加による毎月1回の遠隔会議も3年目を終え定着してきました。この会議で作上げた共通アンケートを全附属の研究会参加者を対象に実施し、分析と改善を図っています。附属学校園の研究結果の公立学校等での「活用度」をどう評価していくかが課題です。「大学・附属学校園共同研究論文集」へも昨年度の倍の4件の投稿があり、今後は更なる数の伸びを期待しています。



学長所感



戦略7

教科横断探究プロジェクト

Strategy?



教科等横断し、協働的に学び合う次世代型プログラムを開発するとともに、教育効果を客観的に検証する評価システムを構築し、学生の資質向上や大学の授業改善につなげます。

●「遠隔・オンライン教育」、「ICTを活用した、効果的な学習支援」、「探究的な学習を通じて協働的に学び合う教科等横断学習」について、調査研究を行い、次世代型教科等横断プログラムを開発する。

プロジェクトメンバー

野地 恒有 上原 三十三 小塚 良孝 竹川 慎哉 真島 聖子 梅田 恭子 岩田 吉生 松井 孝彦 樋口 一成
宮川 貴彦 縄田 亮太 西野 雄一郎 藤本 奈美 後藤 成美 柴山 麻衣



次世代型教科横断探究プログラムの開発に向けた調査研究



高等学校の「総合的な探究の時間」についてのシンポジウムを開催しました

2024年2月18日(日)、教科横断探究と親和性の高い高等学校の「総合的な探究の時間」について、現状と課題を整理し、課題解決について現場の実践者や学識者、教科調査官、学生等、様々な立場で教育現場に関わる方々で議論し合う、「どうする!? 総探」シンポジウムを開催しました。



挨拶する野田学長



加藤先生の講演の様子



清水先生の講演の様子



藤井先生の講演の様子



シンポジウムのチラシ

シンポジストで愛知淑徳大学准教授・文部科学省教科調査官の加藤智氏、広島県立三原高等学校教諭の清水智貴氏、早稲田大学教育・総合科学学術院教授の藤井千春氏から講演をいただいた後、少人数グループでディスカッションを行い、活発な議論が交わされました。

学内外問わず、現職教員、高校生、学部生、大学院生、大学教員、大学職員等多様な属性の参加者が50人ほど参加し、自己の在り方・生き方を考えることにつながる高等学校での「総合的な探究の時間」の在り方について、それぞれの視点で思いを巡らせました。



グループディスカッションの様子



北方町立北学園の訪問調査を実施しました

12月、岐阜県の北方町立北学園を訪問しました。北学園は、4月に開校したばかりの公立の義務教育学校で、敷地内には幼保連携型認定こども園も備え、幼保小中15年の一貫教育が行われています。比較的大規模な一貫校としての運営や取組について、先生方からお話を伺い、校舎や授業を見学させていただきました。

質疑応答では、異年齢集団の形成に当たっての授業内外の取組や、幼児教育段階から中学校までの15年間を通じて学びの連続性を持たせる工



北学園正門

夫、学級間の横の連携と学年間・学校間の縦の連携をどのように意識し、教育活動に反映されているかなど、新しい学校の取組を勉強させていただきました。本訪問調査については、愛知教育大学教科横断探究コースの研究誌である『6一論叢』に報告書を掲載しました。



北学園について名取教育長から御説明いただきました



北学園パンフレット

教科横断プログラムの教育内容を検討しました

次世代型教科横断探究プログラムのカリキュラム開発に向けて、令和3～4年度に教科横断探究のビジョンを策定したことや実践校の事例収集を行ったことなどを踏まえて、まずはカリキュラムにおいて目指す資質・能力(アウトカム)の検討を行い、次いで、教育内容を各学

年のシラバスに落とし込み、カリキュラムの素案を作成しました。

全9回の検討会議にてプロジェクトメンバーで真剣に議論し、教科横断探究コースの実際の実践例や学生の様子なども加味して、検討を行いました。

佐久島しおさい学校で実践研究を行いました

9月25日(月)～27日(水)、西尾市立佐久島しおさい学校において、学生が授業実践を行いました。



生徒と一緒にリズム作りの話し合いをする様子

授業実践では、教科横断探究教育の実践として、音楽、算数、国語の授業において、校歌やリズム作り、買い物をテーマにした四則計算等、詩と表現を題材に教材開発を行いました。



生徒が実技をする様子



授業についての協議の様子

準備に当たっては、佐久島しおさい学校の先生方に御指導いただきながら協議を重ねて当日に臨みました。

また、夕方には体育館で部活動の交流も行い、児童生徒と学生と一緒にスポーツを楽しみました。



部活動交流の様子

近年、「文理融合型教育」「STEAM教育」等の必要性が中教審答申等でも述べられています。様々な専修の学生と体験活動を通して交流し、教科の枠を超えた資質・能力を身に付け活用しさらに向上させることが必要であると思います。今後も取り組みを充実させていきます。また、相互連携協定を締結した岐阜県北方町の0歳～15歳までと一緒に過ごし学ぶ北学園の視察は有意義だったと思います。



戦略8

IR・教職協働の推進

Strategy 8



IR部門を活用して得られた学内外の客観的なデータに基づき、戦略的な大学運営を行うとともに、教職員が協働して柔軟な組織運営を行います。

- IR部門では、戦略的な大学運営を行うことができるよう、学内外の客観的なデータを可視化したファクトブックの作成などに取り組みます。
- 教職員が協働して柔軟な組織運営を行うことができるよう、教職員のFD・SD等に取り組みます。

Activity Report

●全学FD・SD研修会の実施



「愛知教育大学の魅力共創—学生・院生の声を聴き合い、大学の魅力を共に創る—」をテーマに、学生・院生と教職員がグループ討議を行いました

2024年2月22日(木)に全学FD・SD研修会を開催し、学部生・大学院生および教職員57人が参加しました。

本研修会は、4年に一度実施している学生生活実態調査の結果などを踏まえ、学生生活に焦点を当てた意見交換を通じて、学生と教職員が大学の魅力向上のために何ができるか、共に考えることを目的としたものです。

研修会では、小塚良孝副学長の基調提案に続き、学生・教職員混合のグループに分かれて、グループ討議を行いました。その後、各グループの代表者が話し



グループ討議の様子



各グループの発表の様子

合った内容を発表し、野田敦敬学長から総括コメントが述べられました。また、グループ討議に関する振り返りを行い、新津勝二理事からの閉会のあいさつで研修会を締めくくりました。

研修会の後、学生からは「大学の先生や事務職員の方との意見交換を通じて、本学の課題に対する意識が高まり、視野が広がった」、教職員からは「学生が普段感じている悩みや困りごとについて、生の声を聴くことができ、貴重な機会となった」などの感想が寄せられ、愛知教育大学の魅力向上に資する有意義な研修会となりました。



研修会のチラシ

Activity Report

●ファクトブック2023の作成



IR室にて毎年度発行しているファクトブックの2023年度版を発行しました。

ファクトブックは、「見える化」した教員就職実績など本学に関する様々な情報を公開することにより、本学の現状について理解してもらうとともに、他大学の状況と比較することで、本学の強みや課題を学内構成員に認

識してもらうことを目的として作成しています。

本学における取組の成果検証などに資するよう、IR室では継続してデータの収集を行っていきます。



ファクトブック2023

学長所感



この戦略のキーワードは、「学内外の客観的なデータ」「戦略的な大学運営」「教職員の協働」です。今回の研修会では学部生・大学院生の声を聴く機会としました。十数名と少なかったのですが、辛辣な要望等を聴くことができました。今後も教職学の共創の場づくりを行い、学修者本位の大学に転換するための方策について語り合い、思いを共有し、新たな意味や価値の創出につなげたいと思います。





戦略9

大学間ネットワークの構築

Strategy 9



国公立大学と連携協定を締結して、教職大学院を核としたネットワークを構築します。

●国公立大学と連携協定を締結して、教職大学院を核としたネットワークを構築します。

Activity Report

●第2回連携協定校ネットワークフォーラムを開催



2024年2月16日(金)、第2回連携協定校ネットワークフォーラム「教職大学院を核とした大学間ネットワークの構築」を本学で開催しました。連携協定校の大学関係者、連携協定校から本学教職大学院へ進学した大学院生、本学教職員あわせて30人が参加しました。



教職大学院生による発表

はじめに野田敦敬学長から開会のあいさつが述べられた後、連携協定校出身の本学教職大学院生3人から「大学院における学びと自己の成長」について、教職大学院での学びの成果や今後の展望等について発表がありました。



グループディスカッションの様子

その後、参加者はグループに分かれ、今後の連携協定校によるネットワークの共創についてグループディスカッションを行いました。「(教職大学院修了見込者は)教員採用試験において優遇措置を受けられるなどのメリットをもっとアピールすべき」「協定校出身の大学院生が母校を訪問してゲストティーチャーとして出前講座を行ったらどうか」



フォーラムのチラシ

などの意見が挙げられ、最後に野田学長からの閉会のあいさつで本フォーラムを締めくくりました。



Activity Report

●東海学園大学・中部学院大学と教員養成の高度化に関する連携協定を締結

6月23日(金)、東海学園大学と、8月2日(水)、中部学院大学と教員養成の高度化に関する連携協定を締結しました。

この協定の目的は、「本学大学院への受験・入学を希望し両大学に在籍する教員を志す学生を対象として、本学大学院教育学研究科専門職学位課程(教



東海学園大学との締結式

職大学院)において、教育実践力を備えた高度専門職業人としての教員の養成を行うこと」です。今までに同様の協定を相山女学園大学、愛知東邦大学、鈴鹿大学、愛



中部学院大学との締結式

知淑徳大学、愛知大学、岡崎女子大学、南山大学、中京大学と締結しており、東海学園大学は9大学目、中部学院大学は10大学目の協定締結校となります。

今年度は、東海学園大学、中部学院大学、岐阜協立大学(締結予定)と岐阜県まで連携協定締結大学を増やし11大学となりました。そのうち9大学の教職員の皆様の参加による「連携協定校ネットワークフォーラム」を昨年度に引き続き開催しました。他大学から進学した、小学校教員免許や中学校教員免許の取得プログラムを受講する大学院生の皆さんの充実した生活ぶりを聞き、本プログラムの手ごたえを感じました。



学長所感

あしがき

Afterward

本報告書は、2023年度の「未来共創プラン」の取組を1～9の戦略ごとにまとめたものです。3年目を迎える「未来共創プラン」は、これまで以上に、「共創」を意識して、各戦略のプロジェクトを推進してきました。この間、学内外の多くのみなさまからご支援とご協力を賜りました。関係者一同、心より感謝申し上げます。

「未来共創プラン」で掲げる「共創」とは、「人と人が文脈を共有し、相互交流し、助け合いを学び、共に成長していく関係を構築することを通じて、意味を創出し、価値を生み出す」ことを意味します。「未来共創プラン」の各戦略の活動を通じて、他者を自己に取り込んで共創的な対話を行うことにより、今までにない観点からの知識を生み出すことを意図しています。「共創」するためには、「場」を形成することが重要です。「未来共創プラン」では、異なった価値観を持った人間が「場」を通じた相互作用によって、対立を乗り越えて知を生み出すことに挑戦してきました。

しかし、課題もあります。今年度の「未来共創プラン」の活動を振り返って、来年度取り組むべき課題を3点あげたいと思います。

第1の課題は、シンポジウムやワークショップ、フォーラムの開催時期が、12月～2月に集中してしまった点です。しっかりと準備をして取り組んだ戦略もありましたが、参加者の募集に十分な時間が取れなかった戦略もありました。来年度は、年間計画を立てて、プロジェクトの周知や参加者の募集を行いたいと思います。

第2の課題は、各戦略の取組をそれぞれ独自で行ったことで、各戦略の目的やねらいを達成することができた反面、各戦略のよさをつなげて、広がりのある取組にまで発展させることができませんでした。そこで、来年度は、戦略1～9の活動のよさを組み合わせることで、さらなる相乗効果を図っていききたいと思います。

第3の課題は、「未来共創プラン」が愛知教育大学の中長期ビジョンであることの浸透度です。本学の教職員や附属学校園、愛知県内の教育委員会には、学長が繰り返し「未来共創プラン」の重要性を語り、進捗状況を報告し、活動への参加を促してきたことで、一定程度の共通理解を図ることができてきました。一方で、学部生・大学院生・留学生の「未来共創プラン」に対する浸透度は、まだまだ低く、戦略1の「子どもキャンパスプロジェクト」に参加する学生数は年々増加しているものの、「未来共創プラン」の全体像を理解するところまでは至っていません。そこで、来年度からは、「未来共創プラン」の年間計画を学内に掲示して、入学時点から、「未来共創プラン」について「知る」機会を増やし、学部生・大学院生・留学生が参加しやすい場をつくり、主体的に参画する機会を増やして、仲間意識を高めたいと思います。

これからも、よりよい教育の未来を共創する場づくりを通して、学内外に共感の輪を広げていきたいと思います。

真島 聖子（未来共創プラン担当学長補佐）





奥付

Calophon

『愛知教育大学未来共創プラン2023』

監修 ■ 野田 敦敬（愛知教育大学 学長）
 小塚 良孝（愛知教育大学 副学長 学生支援・国際交流・未来共創担当）
 真島 聖子（愛知教育大学 学長補佐 未来共創プラン担当）

担当課 ■ 企画課 未来共創推進室 戦略 1
 学術研究支援課 戦略 2、戦略 3
 国際企画課 戦略 4
 附属学校課 戦略 5、戦略 6
 教務企画課 戦略 7、戦略 9
 企画課 戦略 8

デザイン ■ 企画課 未来共創推進室

愛知教育大学 2024 年 3 月 31 日 発行
 未来共創プラン 監修 野田敦敬・小塚良孝・真島聖子
 2023 発行 国立大学法人愛知教育大学

印刷 ■ ツゲ印刷株式会社



未来の教育を共に創る

愛知教育大学が目指す姿

- 子どもの声が聞こえるキャンパス
- 地域から頼られる大学

未来共創プランのHPに
ぜひ遊びに来てください。



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

〒448-8542
愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1
<https://www.aichi-edu.ac.jp/>